

中国共産党 世界最強の組織

1億党員の入党・教育から活動まで

西村晋



日本の中国専門家、**全員脱帽。**

——安田峰俊（中国ルポライター、第50回大宅賞受賞）

なんで中国共産党はあんなに強固なんだろうと
つねづね思ってたんですが、

全て氷解しました。

——井上純一（『中国嫁日記』作者）

「**強い中国**」を実現した異形の「**民主**」システム

中国共産党の真の力を「**組織論**」から解き明かす!

中国共産党

世界最強の組織

1億党員の入党・教育から活動まで

西村晋

星海社

218



SEIKAISHA
SHINSHO

本書のテーマは中国共産党の組織です。ただし、日本で「中国共産党」が話題になる場合に、ほとんど意識されることがなかった地域コミュニティや職場内の共産党組織について扱っています。中国ニュースや中国事情の評論では、中国共産党の頂点の部分、党中央と呼ばれる部分しか話題になりません。しかし本書は、国家主席や党中央の幹部については、ごく軽く触れる程度に留めました。その分野を解説している日本語の読み物はいくらでもあるからです。

党中央が中国共産党組織の頭脳だとしたら、本書で扱う中国共産党末端の組織は物事を実行する手足に相当します。早い話が実働部隊です。巷ちまたにあふれる中国論では、国家主席のビジョンや党中央の幹部の意向が取り上げられるばかりで、上層部の意思決定がどのように実行されるのかについては「一党独裁」「上意下達」など知った風な言葉でお茶を濁にごされるばかりでした。

しかし、党中央なり中国政府なりが、変化の激しい現代中国の社会に対応する政策や方針を打ち出したり、新たに生まれた問題や意見やアイデアを汲み上げたり察知したりできるのはなぜか、という点はあまり多く語られませんでした。その背景には、2021年時点で9500万人以上の党員を抱え、やがて1億に迫ろうという巨大な中国共産党組織があります。どうやって下からの意見を吸い上げ、そして、上で決定された政策を誰がどのように実行するかといった面にこそ、草の根民主主義と一党独裁が巧みに組み合わされた中国式の統治システムの、更に言えば今の中国社会の特徴があるのです。本書はこの仕組みの要となる中国共産党末端の組織を紹介することを目的としています。

筆者は9年間、外国人教師として、中国内陸の大学に在職し、周囲の教職員の過半が中国共産党員という環境で働いていました。また、筆者が担当した学生の少なからずが、大学内の共産党組織に所属している党員や予備党員でした。

中国で暮らしていれば、地域の共産党組織と触れる機会があるものです。また、日系企業ではなく、中国の学校や企業に勤め、中国人上司の下で働けば、職場内に共産党組織があることにもすぐに気づきます。しかし、地域研究者向けの論文や資料を除けば、この領

域の基礎情報をまとめた本が日本にはありません。

また、中国の書店には、地域や職場の共産党組織のメンバーが読むためのテキストが数多く売られています。そう難しい内容でもなく、中国語がわかるならば理解できる単なるマニュアルの一種です。しかし、それらの本の内容が日本で紹介されることはほとんどありません。あまりにも平易な内容であり、中国人にとっては当たり前すぎる情報であるゆえ、地域研究者からも見向きされない傾向にあります。

地域コミュニティや職場に設置される中国共産党組織は基層党組織と呼ばれるものです。これは中国人にとっては生活に根差した常識、極めて当たり前の知識であるのに、日本人がほぼ何も知らず、知識人をも含む多くの人々が想像すらできない対象といえます。他方で中国人にとって、党組織の会議や、コミュニティや職場の自治組織における意思決定過程がどのくらい自然なことであるのか、中国のエンターテインメント作品からもうかがうことができます。

劉慈欣氏によるSF小説『三体Ⅱ 黑暗森林』では、地球から遠く離れてしまった五隻の宇宙戦艦の乗員5500名が、一つの国家「星艦地球」となって地球からの独立を謀るシーンが出てきます。その際、当直の者をも含めた全員参加の「市民総会」を開いて「星

艦地球」の今後の進路と地球からの独立を採決します。独立後の「国民総会」では、統治システムとトップ人事を、やはり全員参加の会議の採決によって定めます。そして、「星艦地球」では、「国民総会」から統治権力を託された統治委員会によって重要事項を決定することが100%の賛成票で決定されます。

この「星艦地球」の二度の総会は、中国共産党の党支部の党員大会や、中国の農村の村民大会とほとんど同様の仕組みです。また、「星艦地球」の統治委員会は、やはり、中国共産党の基層組織の委員会や、中国の農村の村民委員会と同じ仕組みの合議体です。また、『三体Ⅱ 黑暗森林』の舞台となる約二百年後の未来では、現代中国の「居民委員会」としか考えられない地域の自治組織が脇役ながらも登場します。世界的ベストセラー『三体』シリーズの細部をよく見てみると、中国社会の末端における直接民主制や自治のあり方も描かれているのです。中国で働いている方の中には、このことに気づかれた方もいらっしゃるかもしれません。筆者は、欧米や日本を出身地とする乗員が果たしてこのような形式の会議や統治システムに納得するだろうかと疑問に思いましたが、中国人にとってはごく当然の意思決定過程なので、作中では特に反対もなく全会一致で採決されたのでしょうか。中国共産党の基層組織を知らなければならぬ理由や、知らないで損する理由はいくつ

かあります。日本側が中国側の常識を十分に理解できていないことは、中国との相互交流の障壁になり得ます。これは日本人が中国企業に就労する場合、また、中国進出企業が現地職員を雇う場合に、適応するまでの障壁を一つ増やしてしまいます。また、種々の提携・交流においても、中国の企業や機関の党組織幹部が重要な役割を果たす場合が多いのです。相手側から説明は得られるものの、日本側の担当者が企業内党組織について、スタンダードかつ必要最低限の基礎知識を弁^{わきま}えておかなければ対等な関係を築きがたくなります。

また、中国に対して、専制・寡頭^{かとう}というイメージを持つ評論や分析が日本には少なくありません。それらが全て間違いというわけではありませんが、単に無力に上に従っている人々であるというイメージや、現場や大衆の現実の問題を吸い上げることができない非効率な国で育った人々たちであるというイメージをま^まとってしま^うと、むしろ何も知らないよりも将来予測や問題解決が困難になります。実際に中国人を雇用したり、指導したりといった経験のある方ならば、彼らがそう簡単に上に従ってくれる人々ではないことや、力や上下関係だけで動かせる人々ではないことを感覚的に理解しているはず^{です}。

さらに、中国社会において重要な役割を果たす党組織を省略した理解をすることで、中国政治のみならず、中国社会や中国経済に対する評価や分析や将来展望が不確かになって

しまします。中国共産党の基層組織は、方針や政策の上意下達を担い、更に、不特定多数の大衆からの意見の吸い上げを行う下意上達を担います。そして、教育や宣伝によって政権支持基盤を確固たるものとし、新たに黨員を教育訓練することで政権支持基盤を拡大します。方針が浸透するよう、計画や目標を実現できるよう、至るところに存在する党組織メンバーが足元の問題解決に取り組みます。末端党組織の存在を理解しない中国社会への理解は、いかに高度かつ最新の事情を採り入れようととも、現実を無視したものであり、空想によって論拠を構築するような行いとなりかねません。

そして、21世紀になってから、「中国崩壊論」が本邦で人気になりやすく、しかも、近い将来を予測する上でほとんど役に立たなかった背景の一つは、基層党組織や、中国の地域や職場の自治組織への考慮が大きく不足していたことにあります。末端の党組織には積極性や自主性も求められています。また、上級党組織が拒否権を持つとはいえども、生徒總會や学生總會のような直接民主制に近い意思決定機関を末端党組織は備えています。現代中国の体制を肯定するにしても批判するにしても、末端メンバーの自主性・積極性・創造性がそれなりに求められている組織によって中国の体制は支えられていることくらいは理解しておく必要があります。

本書は中国の体制を翼賛することを目的にはしていません。本書の内容で現代中国の種々の社会問題を否定できるものではありません。しかし、現代中国を支える中国共産党の末端組織には、優れた面が多数あることを強調しています。現代日本が直面する複数の課題に対して、中国共産党式の組織やソリューションから参考にできる点も少なくないはずです。

中国共産党の基層組織には、勢力の拡大、メンバーの教育訓練、メンバーの動機付けや意識改革、ビジョンの共有、現場の意見の吸い上げ、不満の処理と説得、意思の統一、機動性といった面で優れている面があることは認めざるを得ません。

学生や若者に対しては、教育訓練や実践を通じたコミュニケーション能力の向上、公共心や利他心、愛国心を刺激する効果を上げてきました。現役・中堅世代に対しては、学びなおし、職場の改革や生産性向上、仕事への動機付け、コンプライアンスやガバナンスの強化、同僚との交流の機会を与えてきました。引退世代に対しては、地域レベルで組織化することを通じて、孤立の回避や、人とのつながり、帰属の欲求を満たすといった機能を発揮してきました。

「中国共産党がなければ新しい中国はない」という言葉が中国にあります。これは決して

大袈裟おおげさなものではなく、また、為政者などの体制側にいる者の自画自賛というわけではありません。

本書では、日本の中国理解のエアポケットである「中国共産党の基層組織」について見ていきます。1章では、従来、あまり詳しく語られることがなかった、新入党員の入党プロセスを詳しく説明します。新しい党員の勧誘や教育は、党組織にとって最も重要な役割の一つです。また、入党する一般党員の側から見ると、党組織についてイメージしやすくなるので、最初にこれを説明します。2章では、中国共産党にとって最も重要な組織である「党支部」について解説します。「党支部」は中国共産党にとって最重要の組織でありながら、その役割や日常的な活動について、日本で紹介されることは多くありませんでした。3章では、複数の「党支部」を統括するための党組織の階層構造について述べます。中国共産党組織の階層構造は、従来、日本では、ほとんど真面目に説明されることがなかった領域です。

4章では地域における党組織を、そして、5章では、職場における党組織を解説します。最後の6章では、近年問題となりやすい外資系企業における党組織を解説します。中国共産党の末端組織について既に十分な知見を持っている方は、これらの各論のうち関心のあ

る部分から読んでいただいても構いません。

第1章 どうすれば中国共産党員になれるのか 19

1・1 中国の若者には日本の若者にはない決断をする場面がある 20

1・2 日本の政党よりも厳格な、入党までの教育訓練と審査 24

1・3 入党までの具体的なプロセス 26

入党を申請してから「入党積極分子」になれるかどうかの段階 26

「入党積極分子」が「党员発展対象」になれるかどうかの段階 29

「党员発展対象」が「予備党员」になれるかどうかの段階 30

「予備党员」の段階 34

中国共産党の最重要組織・党支部とは何か 45

- 1・4 予備党員の予備期が満了すれば、正式な党員になることができる 37
- 1・5 党員になるまでの選別プロセスは、受験や就活と混同しないほうがいい 38
- 1・6 入党の勧誘が行われることも多々ある 42

- 2・1 中国共産党の党支部とは何か 49
- 2・2 党支部が接触する「群衆」とは何か 52
- 2・3 草の根コミュニティ「基層」と党支部 56
- 2・4 党支部の人々は何をしているのか 61
- 2・5 分野別の党支部の役割の違い 63

地域に設置される党支部は経済・厚生面での役割が大きい 64

大学における党支部は教育面の役割が大きい 64

職場における党支部はマネジメント面の役割が大きい 66

「流動黨員」《流動黨員》のための党支部も存在する 67

2・6 党支部における学習は、社会のアップデートにつながる 70

2・7 党支部における宣伝とレクリエーション活動 73

最も群衆に近い党活動はレクリエーション活動 74

中国でのレクリエーション活動における注意事項 75

2・8 非制度的なボランティア活動も重要 78

2・9 党支部の意思決定機関と執行機関 80

党支部の意思決定機関・党員大会 80

上意下達と下意上達の結節点・支部委員会 84

第3章

中国共産党組織の階層構造

87

3・1 日本で見かける「中国共産党の組織図」の欠陥 91

3・2 基層党組織の階層構造を下から見る 97

小組 98

党総支部 99

党基層委員会 101

地方党組織の階層構造 105

3・3 中国共産党の中央から末端までの正しい組織図 110

第4章 党組織が統治する中国の地域社会 117

4・1 農村に設置される党組織は、すべての党組織の原型 121

日本人のイメージとはかけ離れた、都市化した村 123

郷や鎮の党委員会は何をしているのか 128

行政機関ではないのに村を治める村民委員会 131

村民委員会と村党組織の幹部は同一人物がとめる 134

4・2 都市における基層「社区」 137

社区党組織と農村の党支部の違い 139

社区党支部の役割 141

居民委員会とは何か 144

居民委員会と社区党組織 149

第5章 共産党組織は企業でどのような活動をしているのか 153

5・1 企業内党支部の特色 158

国有企業の企業内党支部の組織 158

企業内党支部は、企業活動への貢献が要求される 159

企業内党支部の書記に求められる素質や能力は、理想的な社会人像と重なる 160

レクリエーション活動の主体者としての党組織 162

5・2 企業内党組織と社員教育 165

企業内党組織における教育「党課」 165

- 企業内党組織における教育、党支部での教育 167
- 5・3 企業内党組織と事業活動は深く関係する 169
- 5・4 コンプライアンスを監督する党組織 173
- 党支部の基本的な役割にコンプライアンスが含まれる 173
- 共産党のコンプライアンス部門「紀律検査委員会」 175
- 5・5 国有企業のカバナンスと党組織 176
- 民主管理を担う「老三会」による企業カバナンス 176
- 老三会（1） 従業員代表大会 179
- 老三会（2） 中国国有企業における労働組合 182
- 老三会（3） 企業内党委員会 186
- 村と同様、企業にも「一肩挑」がある 189
- 5・6 民間企業の「双向進入」 192
- 5・7 企業内党組織が職場のカバナンスを担うことは妥当なのか 197

外資系企業は共産党組織とどう付き合っていけばいいのか 201

- 6・1 2020年から日本でも揉め始めた、中国進出企業における党員問題 204
- 6・2 外資系企業の党支部の役割 209
- 6・3 中国側から見た外資系企業における党組織設立問題 212
- 6・4 00年代のウォルマート支店における共産党支部結成問題 215
- 6・5 外資系企業は共産党組織とどうやって共存すればよいのか 220
- 6・6 中国進出企業は、自社の党組織をどのように扱うべきか 225

結 229

主要参考資料 237

第一章

どうすれば中国共産党員になれるのか

1 i 中国の若者には

日本の若者にはない決断をする場面がある

「共産党員になるかどうか迷っています」

筆者が河南省の大学で働き始めて半年ぐらいが経過した2013年の春頃、ある学生からこのような相談を持ちかけられ、驚いた経験がありました。

中国の大学生は、日本の大学生には馴染みのない決断を迫られるのです。それは、党員になることを希望するか、しないかという選択です。

その学生は、「中国共産党員になった場合、外資、とりわけ日系企業への就職に不利にならないでしょうか？」と心配になり、私に相談しに来たのでした。他方、メリットとしては、国有企業に就職する場合なら有利になるかもしれないこと、また、純粹に党活動に関心があるということを挙げていました。

さて、当時の私は中国共産党に入党する仕組みや条件もよく知りませんでした。しかし、

どうやら大学内に共産党の組織があることまでは知っていました。彼が希望し、なおかつ、大学内の共産党組織の担当の先生の承認を受ければ入党できるらしいと、彼の話からおぼろげながらわかりました。

私も、中国渡航前に、日本のある政党の党員に2年間ほど登録していた時がありました。その旨を彼に話しました。「私は、近所のおじさんに誘われて、きわめて簡単な書類に名前を書いて、二千円の会費のようなものを払っただけで日本の政権を担う〇〇党の党員になった。たぶん、日本の他の政党も同じようなものだと思う。近所の党員のおじさんやおばさんに書類をもらって名前を書くだけで党員になれる。別に、面接らしい面接も受けていないし、筆記試験も小論文もない。だから特別な勉強もしていない」と彼に説明したところ、日本の権力中枢の構造のあまりの簡便さに拍子抜けしたのか、苦笑していました。

結果的に、「私も外国の党員であったが、中国で就職するのに何の障壁にもならなかった。たぶん、共産党員になっても、日系企業への就職にそんなに不利にならないのではないか。党員が非党員かすらも採用時に尋ねられないかもしれない」と答えました。その7年後には、外資系企業や在外公館で共産党員が多数働いていることが日本の報道や議会で問題にされ始めたため、いかに「予測できなかった／知らなかった」とはいえども、悪い

ことをしたと思いました。

他方、前述のとおり、国有企業への就職など、国内企業勤務を希望する場合は、有利になる場合が多いと聞きます。これは党員であれば意識が高く協調性があるというシグナルとなるのに加え、中国の企業や種々の職場の中で党組織が重要な役割を果たしていることと関連します。大学生にとって、この点は比較的強い魅力となります。職場内の党組織の活動や役割については2章と5章で詳述します。

また、後述する、党組織の中での様々な団体活動や学習も、青年の志や興味や帰属意識を刺激するものとなります。2021年には香港の映画スターのジャッキー・チェンさんが中国映画家協会の会合において「中国共産党に入党したい」と発言し物議をかもしました。ジャッキー・チェンさんの場合は、中国での人気取りのための発言かもしれません。しかし、彼の発言そのものを正直に受け止めると、「党員が羨ましい」とも発言しており、党組織の活動や学習内容に対して魅力を感じたという文脈になります。

ちなみに、計画経済時代は、「党員であれば住宅の抽選等で有利になるかもしれない」といったことも党員になるメリットとして挙げられていましたが、近年ではそのような話は聞いたことはありません。住宅は主に市場を通じて供給される（一部は職場を通じて職員に

供給されます) ため、党員であるかどうかよりも、お金を持っているかどうか、また、職場の福利厚生関係が充実しているかどうかと関わってくるためです。

中国の大学で働いていると、正式な党員ではないし、かといって非党員でもない「予備党員」の学生が相当数いることに気づかされます。別に学生本人が外国人教師の私にわざわざ党員であることを名乗ったり自慢したりするわけではないですが、様々な書類(例えば、学生が夏休みのアルバイトをする際の履歴書を見せてもらった時など)に書いてあるために、知ってしまうのです。

予備党員とは、入党を希望してから正式に入党するまでの、一種の研修期間にある人々です。入党を希望できる者の条件には年齢制限があります。18歳以上でなければ入党を希望できません。ゆえに、大学4年生くらいまでは正式な党員はあまりおらず、予備党員あるいはそれ以前の段階の入党を希望するプロセスの途上にある人が多数存在することになります。また、私も中国に来たばかりのころは誤認していたのですが、予備党員になる更に前の段階の「積極分子」や「発展対象」と呼ばれる一種の見習い期間のメンバーも、外面的には党の活動をしているように見えてしまうので、予備党員と見誤ってしまうことが

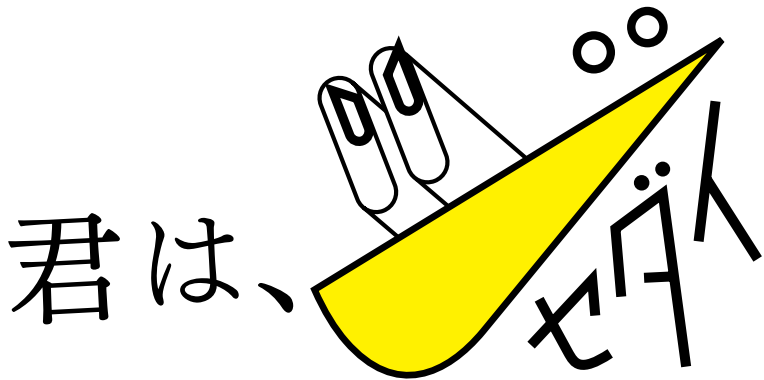
あります。彼らはいくまで、党員になる前の教育および審査を受けている段階の人々です。

1・2 日本の政党よりも厳格な、

入党までの教育訓練と審査

もし、あなたが日本の政党に入党を希望するならば、近所の党員の誰かに申請書をもらって簡単な連絡先などを記入するだけで済みます。しかし、中国の場合、共産党の党員になるまでにはこれから述べる12のプロセスを経ることになります。これは厳格な審査と教育訓練の道のりであり、途中で落とされる可能性もあります。

「審査が厳格である」のはよいことなのですが、入党する側から見れば、審査のための資料準備がとて大きな負担になります。就転職の際の応募資料の作成をイメージしていただけるとわかりやすいのですが、「手書きで応募書類を作成する」のがとても煩雑はんざつで骨の折れる作業であることは多くの人に理解していただけたらと思います。



君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ
ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!